

平成 29 年度

学 校 評 価

< 記入上の留意点 >

評価 は教職員、評価 は校園長、評価 ・評価 は学校関係者評価委員の評価を記入する。

評価 は小数第一位まで記入する。評価 は4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。
評価 はA B C Dで記入する。

学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

評価、評価 の基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

評価 の基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

評価 の基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 中 央 中 学 校

平成29年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- ・基本的な生活習慣及び学習習慣の確立(スマートフォンの使用方法や家庭学習の習慣化)
- ・不登校生徒への対策(不登校生徒減少に向けた組織的取組)
- ・道徳教育の充実(平成31年度の先行実施に向けた準備と実践)
- ・定時退勤日の完全実施(中央中学校版My定時退勤日の推進)

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価 (教職員)	評価 (校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		3	3
取組とその成果	課題と改善策		
校内教科部会において教科目標、個人において個人の目標と具体的な取り組みを年度当初に決定し、授業研究を行うとともに、年度末には教科・個人の達成状況を振り返り、成果と次年度への課題をみつける。 全国学力・学習状況調査や本校独自で実施しているアンケート結果等を活用し、基本的な生活習慣の見直しや学習習慣の確立を図る。 ユニバーサルデザインについて先進校(猪名川町立中谷中学校)視察を行い、本校において必要かつ採り入れ可能なことならについて実践を図る。また、成果と次年度への課題をみつける。	教科目標及び個人目標は年度当初設定し、今後は年度末に教科及び個人で自己評価を行う予定である。 学校だよりや学年だより、学級通信、ホームページ、全校集会、学級活動等を利用し、生活習慣と学習習慣の確立の大切さについて生徒へ指導するとともに、PTAによる会合等で協力依頼を行っている。 UD化に向けて、先進校(猪名川町立中谷中学校)へ2名の教員が視察した後、教室内に教科ごとの連絡用ホワイトボードの設置、教室前面黒板横掲示物等の配慮、いすの脚にテニスボールの設置(一部の教室)等を実践している。		
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価 (教職員)	評価 (校園長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3	3
取組とその成果	課題と改善策		
道徳の時間を確保するとともに、ローテーション授業等、運用面について検討し、次年度につなげる。また、横山利弘氏の自主研究会に担当者等が出席し、道徳の教科化や評価方法について周知を図る。 本校学校生活の基本である『時を守り、場を清め、礼を正す』の徹底を図っていく。 『いじめの未然防止・早期発見・早期対応等』について、本校の『いじめ防止基本方針』に照らして組織的な対応を図る。 トライやる・ウィークや学級活動、体験活動、進路学習等を通じて、夢や目標を持ち、それに向かって進むことのできる力の育成を図る。	担当教員等が横山利弘氏の研修会等に参加し、今後、本校の目指す道徳の時間の質と量について校内研修を行った。併せて、現時点での評価に係る課題について情報共有を図った。 学年集会や行事等において『時を守り、場を清め、礼を正す』をめざし、取り組んでおり、ポスター等を活用し、さらに啓発していく必要がある。 『いじめ防止基本方針』の見直しを図り、いじめ対応チームを中心とした組織づくりを行っている。いじめには危機感を持って対応することを全教員で確認しあう必要がある。 生徒には、体験活動や行事、学級活動、進路学習などを通して、自分の夢に向かって努力することの大切さをさらに指導していく必要がある。		

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む (1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	評価 (教職員)	評価 (校園長)
	3	2.5
取組とその成果	課題と改善策	
食育の年間指導計画に沿って、家庭科の授業を中心に、教育活動全体を通して、食に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、実生活における食に対する考え方を見直させる。 保健体育科や運動系のクラブ活動を通して、体育やスポーツの楽しさを味わわせる。また、心身ともに健康に生きることの大切さについて知らせ、実生活においてその実践を図ることができるようにする。	家庭科の授業を中心に、健康な食生活を実践するため、食事の重要性や食文化の理解、誰かと一緒に食事をする大切さ等について指導しているところであり、保護者への協力を学校だより等でも行っていく必要がある。 保健体育の授業やクラブ活動を通して、生涯スポーツや自身の健康について関心を持たせる指導を行っているところであり、教育活動全体を通してさらに推進する必要がある。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価 (教職員)	評価 (校園長)
	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
自分や他人の命を守るために、自転車教室やAED等の講習会・授業を実施し、主体的に行動する生徒の育成を図る。 自らの命を守るため、学級活動や避難訓練等を通じて、津波や地震、火災等に対する防災・減災意識を高める。	サポートセンターや南警察署の方の協力を得て自転車教室を実施している。また、AEDについては教員研修で実施し、生徒の命を守る意識の高揚を図る。 自分の命は自分で守ることを目標に、避難訓練を年間2回(1回は1学期に実施済)実施する。3学期は、南海トラフ地震を想定し、地震、津波、火災への対応を訓練した。	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校づくりを推進する	評価 (教職員)	評価 (校園長)
	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
不登校生の減少に向け、不登校担当と学級担任が連携し、家庭訪問、本人との面談、保護者への協力依頼、関係機関との連携を行っている。 小学生による中学校1日体験を実施し、中学校の教員や他校の小学生とふれ合うことで中学校入学への期待を持たせる。 「校内見回り隊」や祭礼補導等により、保護者と学校の連携を、より強固な関係にしている。 生徒会を中心に、三和商店街や中央商店街において、自転車のマナー等について通行の人に呼びかけたり、マナー向上をめざしたポスターを作成・掲示したりする。それにより、商店街や地域の方々の教育力を活用し、自転車マナーの向上や地域の活性化を図る。	不登校担当と担任が連携を図り、保護者や関係機関の協力を得ながら不登校生徒の減少に向けて取り組んでおり、本年度は昨年度より減少傾向がみられている。 夏期休業中に3校の小学校6年生を本校に登校させ、中学校の教員が授業を実施し、中学校への期待感という点において、児童の感想から一定の効果があったように思われる。 毎週、月曜日と金曜日を原則として、多くの保護者の方に見回りをしていただき、学校の様子を見ていただくことで情報の共有を図り、学校と保護者の関係を構築する機会になっている。 生徒会活動のひとつとして、校区の商店街において商店街の方や市役所、警察等と連携し、ポスター掲示や通行者への呼びかけ等を実施し、瀬生徒自身の達成感と自転車マナーの向上に一定の成果が見られている。	

教育目標		評価 (教職員)	評価 (校園長)
		3	3
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
学校生活の基本である『時を守り、場を清め、礼を正す』の呼びかけと実践を図り、秩序ある教育活動を実施していく。 教科指導や生徒指導等、教職員の組織的な対応により、知・徳・体のバランスのとれた生きる力を育む教育活動を推進する。	学年集会や行事等において『時を守り、場を清め、礼を正す』をめざし、取り組んでいるが、さらに継続することが大切である。 生きる力を育む教育の推進を図っているが、学力向上や生徒指導等、教育活動全てにおいて、組織として取り組むことの重要性を常に共通認識する必要があると思われる。		

研究テーマ		評価 (教職員)	評価 (校園長)
		3	3
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
研究テーマ「学ぶ意欲を引き出す指導の工夫」～主体的な学びを引き出す授業改善とユニバーサル化の推進～に向け、ICTの活用やグループによる討論、誰もが落ち着いて学習のできる教室環境整備を推進していく。	ICTの活用、社会科におけるデジタル教科書の使用、ペアワークやグループワーク、そして落ち着いて学習できる環境を目指したユニバーサルデザイン化など、取り組みは組織的に、支援は個別的に実践することができている。UD化については、その効果について検討・検証する必要がある。		

学校業務改善		評価 (教職員)	評価 (校園長)
		3	2
(1) 定時退勤日の完全実施 (2) 中央中学校版「My定時退勤日」の設定			
取組とその成果	課題と改善策		
定時退勤を18時～19時を目安として週1回設定し完全実施をめざす。 県教委発行「GPH50」を参考に、業務改善の先進校である西宮市立東山台小学校を訪問し、中央中学校版「My定時退勤日」を設定し実践する。	定時退勤の完全実施に向けては、教職員の意識はあるものの完全実施には至っていない。現在、学校だより等で保護者の理解を得る取り組みを行っている。 西宮市立東山台小学校を訪問した後、中央中学校版「My定時退勤日」を検討、提案し、職員用月中行事表に各教職員名をMy定時退勤の日に記載している。実施状況については、さらに検討していく余地がある。		

学校関係者評価

評価の基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</p> <p>・取組は出来ている。今後さらなる向上を期待する。 ・今以上の学習習慣を確立するために、無関心の保護者に対する協力依頼の出たてを行う必要がある。 ・UD化に向けて、先進校に視察に行き、実践していることもあり、今後期待できる。</p>	3
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>・学校生活の基本である「時を守り、場を清め、礼を正す」をもう少し生徒一人一人が心がけてくれたらと思う。 ・森信三先生の提唱された職場再建の三原則を学校生活の基本にしていることは素晴らしいが、果たして中1には理解できているだろうか。具体的に例を挙げて話してあげればと思う。 ・道徳の研修等に参加されるなど、熱心に取り組んでいる。今後もいじめ防止等に取り組み、子どもたちの心身ともに健全な育成をお願いしたい。</p>	3
<p>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</p> <p>・家庭科や保健体育も子どもたちにとって大事な教科のひとつ、子どもたちに関心を持たせる指導を期待する。 ・食育を家庭科教諭だけではなく、全教科、全領域で取り組めば、さらなる効果が上がると思う。 ・食生活や健康について、関心を持たせる指導をお願いしたい。</p>	3
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>・学校としてはしっかり取り組んでいると思うが、安全な教育環境は家庭での指導も大事です。 ・学校では、安全、安心に対する知識は身につけているが、校外では信号無視や2人乗りの姿をよく見かける。知識から意識となる指導をすれば、もっと効果が期待できる。 ・登下校、校内の安全確保、訓練等もしており、これからも続けてもらいたい。</p>	3
<p>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>・取組みもしっかりされており、少しずつでも効果が見られるので良いと思う。 ・学校だよりや行事の案内を拡大して、社協の掲示板に掲示して、地域の高齢者により関心を持ってもらうことも必要ではないか。 ・先生方も子どもたちも保護者の方も、それぞれの立場で取り組んでいる。</p>	4
<p>教育目標</p> <p>・教育目標の具現化のためには、教職員全員が共通理解し、学年目標、学級目標を学校だよりやホームページで広く知らしめることも良いのではないか。 ・今後、課題と改善策に取り組んでもらいたい。</p>	3
<p>研究テーマ</p> <p>・熱心に取り組んでいると思う。今後の成果に期待する。 ・研究テーマの達成には、一人一人の教員の授業である。直接、生徒の教育に携わる教師の意識改革が不可欠。今の取組みをさらに進めてください。 ・研究テーマの達成、指導の充実に今後も取り組んでもらいたい。</p>	3
<p>学校業務改善</p> <p>・教員はクラブ指導もあり、定時退勤できないことは地域も保護者も知っているが、教員の負担軽減に向けて取り組んでください。 ・完全実施に向けて、さらに検討してってください。</p>	3
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B